

事後評価結果（令和3年度）

担当課：東北地方整備局 道路計画第一課
 担当課長名：柏 宏樹

事業名	一般国道45号(三陸沿岸道路) 矢本石巻道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県東松島市川下 至：宮城県石巻市桃生町太田	延長	26.5 km		

事業概要

一般国道45号は、宮城県仙台市を起点に太平洋沿岸地域をはじめ八戸市や十和田市を経由し、青森市に至る幹線道路である。
 矢本石巻道路は、三陸沿岸道路の一部を形成し、宮城県東松島市から宮城県石巻市へ至る延長26.5km、4車線の自動車専用道路である。

事業の目的・必要性

矢本石巻道路は、三陸沿岸道路の一部を形成しており、国道45号等の混雑緩和及び高次救急医療施設へのアクセス性確保等を目的としている。

事業概要図

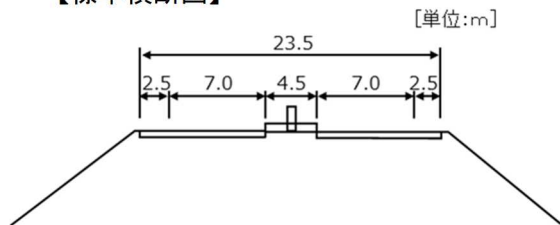
【位置図】



【事業概要】



【標準横断面図】



事業の 効果等	事業期間	事業化	昭和60年度	用地着手	平成元年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) - / H33	変動	0.9倍	
		都市計画決定	平成4年度	工事着手	平成元年度		(実績) - / H28			
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / 1,476億円			実績 (暫定/完成)	(名目値) - / 1,553億円		変動	1.1倍
			(実績値) - / 1,701億円				(実績値) - / 1,867億円			
交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	(H21) - / 38,300台/日			実績 (暫定/完成)	(R3) - / 31,300台/日		変動	82%	
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	24.4km/h → 85.7km/h (供用前年時)H9年度 (供用後年次)R2年度		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)		195件/年 → 55件/年 (H9) (R1)					

費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	総費用	1,891億円	総便益	3,805億円	基準年
	2.0	事業費： 維持管理費：	1,848億円 44億円	走行時間短縮便益： 走行経費減少便益： 交通事故減少便益：	3,267億円 288億円 250億円	平成21年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	総費用	3,338億円	総便益	7,166億円	基準年
	2.1	事業費： 維持管理費：	3,127億円 211億円	走行時間短縮便益： 走行経費減少便益： 交通事故減少便益：	6,281億円 679億円 206億円	令和3年
事業遅延によるコスト増		費用増加額	—	便益減少額	—	
事業遅延の理由						
・特になし						
客観的評価指標に対応する事後評価項目						
①円滑なモビリティの確保 ・石巻市から国管理空港である仙台空港へのアクセス性が向上 (整備前：2時間37分→整備後：54分)						
②物流効率化の支援 ・石巻市から国際拠点港湾である仙台塩釜港(仙台港区)へのアクセスが向上 (整備前：1時間40分→整備後：34分)						
③安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上(南三陸町→石巻赤十字病院) (整備前：59分→整備後：33分)						
④災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、「第一次緊急輸送道路」に位置づけあり ・国道45号(第一次緊急輸送道路)の代替路となる 他12項目に該当						
その他評価すべきと判断した項目						
・特になし						
事業による 環境変化	環境影響評価に対応する項目					
	・特になし					
事業による 環境変化	その他評価すべきと判断した項目					
	・特になし					
事業評価監視委員会の意見						
・対応方針(案)の「今後の事後評価及び改善の必要性はない。」は妥当である。						
事業を巡る社会経済情勢等の変化						
・周辺道路の整備状況						
三陸沿岸道路 平成28年 3月 仙塩道路4車線化(延長7.8km)開通、及び「多賀城インターチェンジ」開通						
平成28年 4月 登米志津川道路(登米東和IC～三滝堂IC 延長2.0km)開通						
平成28年10月 登米志津川道路(三滝堂IC～志津川IC 延長9.1km)開通						
平成29年 3月 南三陸道路(志津川IC～南三陸海岸IC 延長3.0km)開通						
平成29年12月 南三陸道路(南三陸海岸IC～歌津IC 延長4.2km)開通						
平成30年 3月 本吉気仙沼道路(大谷海岸IC～気仙沼中央IC 延長7.1km)開通						
平成30年 7月 唐桑高田道路(陸前高田長部IC～陸前高田IC 延長6.5km)開通						
平成31年 2月 歌津本吉道路(歌津IC～小泉海岸IC 延長10.0km)開通						
平成31年 2月 本吉気仙沼道路(Ⅱ期)(本吉津谷IC～大谷海岸IC 延長4.0km)開通						
平成31年 3月 唐桑高田道路(唐桑小原木IC～陸前高田長部IC 延長3.5km)開通						
令和 2年 2月 気仙沼道路(気仙沼中央IC～気仙沼港IC 延長1.7km)開通						
令和 2年11月 歌津本吉道路(小泉海岸IC～本吉津谷IC 延長2.0km)開通						
令和 3年 3月 気仙沼道路(気仙沼港IC～唐桑南IC 延長7.3km)開通						

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	・ 事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善の必要性はない。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	・ 当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。
その他特記事項	・ 特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。